

横浜市のジェンダー平等政策に 若者の声を届けよう!

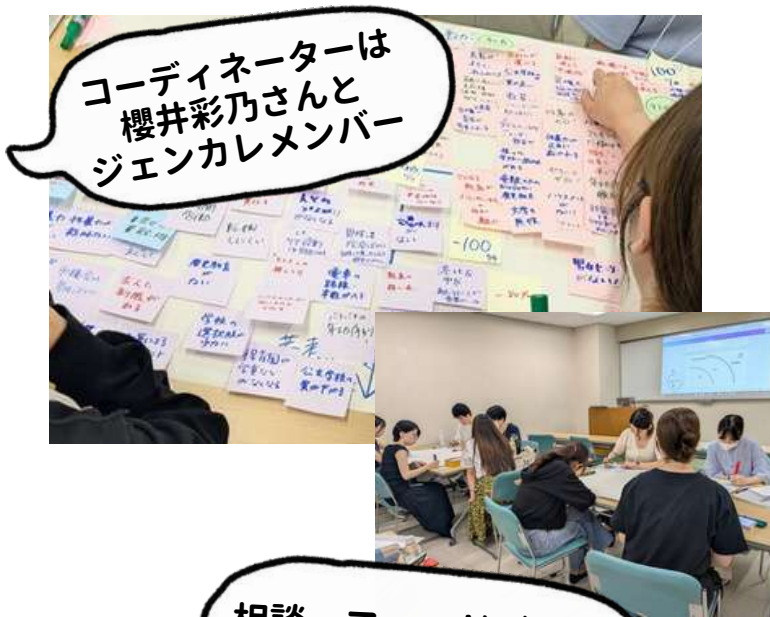
U30対象
高校生も! 社会人も!

ヨコハマジェンダー平等アクションゼミ



自分の
未来に参画する
プロジェクト

横浜市の男女共同参画行動計画（第5次）の最終年に、若い世代が、日頃感じているジェンダーに係るモヤモヤを同世代と共有し、身近な行動や提案につなげることを目的とした連続講座を実施しました。参加者からは、「同世代とジェンダーについて深く話すのは初めてで刺激になった」「日常のモヤモヤを行政や地域へ提案として届けられて良かった」といった声が寄せられ、講座終了後も6次計画のパブリックコメント作成のための集まりや、ユースクリニックの企画など、自主的な活動が展開しています。



相談・フィードバックには
チャットツールも活用

横浜市を
誰もが安心して生活できる
性犯罪・性暴力を許さない街
にしてください!

自分の声が
伝わるようにと
悪戦苦闘...

若者の声を横浜市のジェンダー平等政策に届けよう!

公開講座

ヨコハマジェンダー平等アクションゼミ

最終回・成果発表会

最終日は公開講座として開催！ひとりひとりが自分の言葉で成果・提案を発表しヨコジェンVOICEとして市担当部局に手渡しました。

男女共同参画センター横浜南

横浜市のジェンダー平等政策に 若者の声を届けよう!

U30対象
高校生も! 社会人も!

ヨコハマジェンダー平等アクションゼミ

参加無料

「これって私が気にすべきなの?」「なかなか、ややめず...」そのモヤモヤ、個人的な問題ではなく、社会の問題として発信してみませんか?

8/28 (木) 【申込締め】 WEBセミナー

8/30 (土) 【開会式】 オリエンテーション みらいワークショップ 9:30~12:30

9~10月 【グループ】 有識者へインタビュー

10/19 (日) 【集合研修】 質疑セッション・ブラッシュアップ 10:00~12:30

11/9 (日) 【集合研修】 プレゼンテーションリハーサル 10:00~12:30

12/1 (日) 最終発表会・成果発表会 13:00~15:00 参加費別にご参加いただけます

12/19 (日) 【オプション講座】 オンラインゼミ

12/19 (日) 【オプション講座】 プレゼンの作り方 18:30~20:30

あなたの提案を、横浜市の担当部局に届けます!

講師 櫻井彩乃さん (一般社団法人AGENCOURAGE 代表)

主催: 男女共同参画センター横浜南 共催: 一般社団法人AGENCOURAGE

アートでいも解く ジェンダー平等の過去・現在・未来

フロム
浜松

「当たり前」を「未来の可能性」へ塗り替える、あいホールの斬角的な挑戦

過去 HISTORY 歴史の再構築

女性作曲家アラカルト
～埋もれた6,000人の功績～



4人の女性演奏者がそれぞれの目線で歴代の作曲家を解説!



クラシック音楽史から消されていた女性たちの存在を、音と言葉で再定義。「当たり前」とされていた歴史の見方を更新。

現在 PRESENT ロールモデルの提示

本多厚美サロンコンサート
～表現者の歩みとキャリアを語る～



浜松市からまいか大使



第一線で活躍し続ける音楽家の演奏と対話。専門職における女性の活躍と課題を可視化し現役世代へのメッセージをお届け。

未来 FUTURE 次世代の意識醸成

ジェンダーアートプロジェクト
～子ども達のための創造の場～



15mの巨大キャンバスに「性別の枠」を超えた自由を表現。SDGs目標5を体感するアートプロジェクト。

ジェンダーと色のお勉強も!



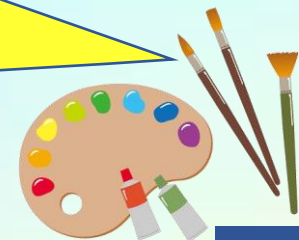
あいホール
～2つの使命を、1つの表現へ～
(浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター)

「男女共同参画」×「文化芸術」—2つの使命を持つ私たちは、アートを単なる娯楽ではなく、新しい価値観を創る『共通言語』として活用しています。

アート ジェンダー



男女共同参画社会づくり 小中学生ポスター展



テーマ

これからの時代を担う小中学生の皆さんが、ポスターの創作活動を通じて男女共同参画社会への理解と関心を深めることを目的として実施しています

発案は…

男女共同参画推進団体等で構成する「ゆうまつどフェスタ実行委員会」において、子どもたちのポスター展をできないかと提案があった。

学び

子どもたち自らが男女共同参画、ジェンダー平等について学び、テーマを決めて描く。ゆうまつどホームページでは、参考になるおすすめ図書の紹介ページを作成。

周知

広報まつどやチラシでの周知の他、校長会を通じて学校の先生にも協力を依頼。
→個人の方だけでなく、美術部としての応募も。

子どもたちが思い描く「男女共同参画社会」をポスターに！



男女平等、ジェンダー平等、私らしさ・自分らしさ、なりたい私になる、好きな髪形や服装、性別に関わらない仕事・役割など

展示

情報紙
ゆうまつど
に掲載



ゆうまつど館内のほか、市役所本庁でも展示

ゆうまつどフェスタ2025 期間中展示

応募数
2023年13件
2024年12件
2025年40件

松戸市男女共同参画センター



地元唯一の プロスポーツクラブと協働で発信

ワーク・ライフ・バランス推進

越谷市男女共同参画支援センター

「ほっと越谷」



事業者を対象とした男女共同参画に関する事業

男子プロバスケットボール クラブとコラボ

株式会社アルファーズに
ワーク・ライフ・バランス (WLB) について
理解・賛同いただき、
WLBの推進活動にご協力いただきました。

越谷アルファーズ
ホームゲームで
ステッカー付チラシを配布

来場者の中にいるかもしれない
・ 事業者、管理職の方
・ 被雇用者
・ 就活生 etc... 一人ひとりに届けたい

来場者の声

定時ダッシュ!!
素敵な言葉。
上司のデスクに貼りたい
半休・有給・希望休も
コンボで唱えたい



来場者数
3,119人!



センター職員が
コラボステッカーや
チラシをデザイン



QRコードから
掲載ページに
飛べるように

WLBについて
地元企業に
インタビュー

市民と協働で
TikTok制作



施設HPで掲載

- ・ WLBのメリット
- ・ 取り組み例
- ・ TikTok動画

事業者を対象とした男女共同参画に関する事業
越谷アルファーズ × 「ほっと越谷」

定時ダッシュ!! 応援day

2025年度 ほっと越谷 HOT KOSHIGAYA

～企業の働き方改革を地域で応援!～
今日も旧お疲れ様でした!

越谷市は、ワーク・ライフ・バランスを推進しています。
この度「ほっと越谷」では、ワーク・ライフ・バランスに関する特集ページ
を制作しました。ぜひQRコードからご覧ください!

ステッカー付!
ぜひ使ってください!

QRコードを
読み取ってね!

ワーク・ライフ・バランスとは?

「ワーク (仕事)」と「ライフ (仕事以外の生活)」の時間を、
個人の生活の中で各自が希望する「バランス」でとれるようにしましょう
という考え方です。
このワーク・ライフ・バランスの重要性は近年たいへん高まってきており
越谷市でも推進のための取り組みを始めています。

「仕事と生活の調和」

ワーク・ライフ・バランスとは?

ワーク (仕事) と ライフ (仕事以外の生活) の時間を、
個人の生活の中で各自が希望する「バランス」でとれるようにしましょう
という考え方です。

映画「草間彌生∞INFINITY」 ～女性が国際的に芸術の世界で生きること～

映画鑑賞×語らい から学ぶ男女共同参画社会

従来

1回完結：講師解説 ▶ 映画鑑賞 ▶ まとめ

今回

2回構成：鑑賞 ▶ 自主学习
▶ 解説&グループ対話



第1回

鑑賞ポイント解説&
映画鑑賞

自主学习

映画を見て考えてきてほしいこと

第2回

解説&グループ対話

映画を観た後でそれぞれの考えを準備して2回目に参加
→ より深みのある学びへ

参加者の声（アンケートより）

たくさんの人と同じ映画を見たことで、自分では気づけなかったこと、知らなかったことなどを語り合うことができてもよかった。

美術館で美術を観たときとは全く違い、より深く草間さんを知ることができた。

映画は衝撃的であった。草間さんにしか経験できないこと。何が言いたかったか映画を思い出し考えてみたい。カポチャやドットの絵しか知らなかったので、ただただ驚いている。

草間さんが闘い続けて現在もご存命であることが、とてもうれしいし誇りに思います。草間さんの水玉が命のしずくであり、全身全霊で生きてこられた命の燃焼を感じることができました。

名前や作品の一部を知っている位の軽い気持ちで受講。びっくり。パワーの人生映画にどきもぬかされた。あわせて本を読み、今も創作しつづけるパワフル人生をみならいたいと思うようになった。



自分が知らなかった草間さんの世界を知ることができました。映画の前に説明があると興味も深々、ますます草間さんが好きになりました。

天才芸術家の知られざる
ドラマティックな人生
激動の1960年代ニュー・ローク。
彼女は芸術の力で愛と平和のために世界に旅んだ。

草間彌生

YAYOI KUSAMA

©2018 TOKYO LEE PRODUCTIONS, INC. ALL RIGHTS RESERVED

2025年6月18・25日(水)【全2回】
14:00~15:50

講師 名古屋外国語大学准教授 竹内 慶至
会場 イーブルなごや 大研修室 定員 30人 ※託児あり(定員20人・80円)
受講料 1,000円(申し込み締切日 4月21日(月) 申し込み方法は裏面参照)

あなたのもとへお届けします!

MIW出前講座

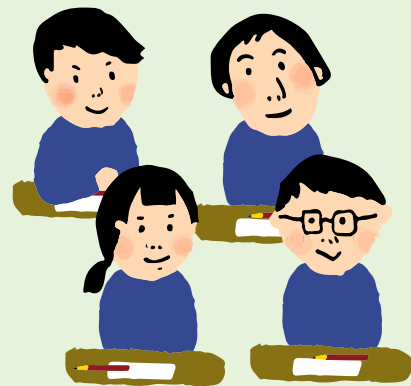
おとどけしまーす



千代田区男女共同参画センター **MIW**

「来てもらう」から「届けに行く」へ。
男女共同参画やジェンダーに関する知識や学びをもっと身近に。
待っているだけでなく、アウトリーチするMIW講座。

step 1 区内小中学校・高校、大学、専門学校の学生・教職員・保護者…
普段利用が少ない方たちに向けて**積極的にアプローチ!**



○ 学校の1学年全員に…

○ ゼミ生を対象に…

○ 教職員の研修に…

step 2 男女共同参画、ジェンダーに関するテーマ、実施方法など、
要望を伺って、カスタマイズ



○ LGBTQについて
ワークショップ形式で…

○ 子育てに関する
オンライン講座を…

○ 性教育についての講義を…



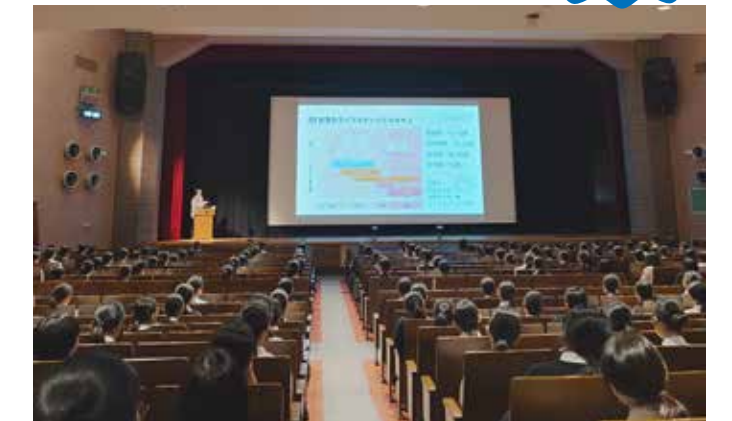
step 3 テーマにマッチした講師を提案し、
講座を実施

「月経やPMSとうまく付き合うために」

講師 ● 竹本 葉さん (sowaka women's health clinic 院長)

5/26(月)実施

区内クリニックの産婦人科医である講師から、生理の正しい知識と生理にまつわる心身の不調への向き合い方についてお話しいただきました。不調への対処法や薬の服用方法、医療機関へのかかり方など、幅広い知識を得ることができました。また、「医師を目指そうとしたきっかけ」や「産婦人科を選んだ理由」などキャリアに関する質問も飛び出す、有意義な講演会となりました。



女子高校の
生徒へお届け!



区内大学の
大学院生へ
お届け!



「デジタル空間で起こる性搾取の現状と被害者への支援 ～社会課題として取り組む視点から」

講師 ● 岡 恵さん (NPO 法人ぱっぷす)

11/14(金)実施

性的搾取やデジタル性暴力被害の予防啓発や被害者支援に取り組んできた講師から、性の商品化がもたらす性搾取の現状や被害者への支援のあり方について、現場のリアルな事例を交えながらご講演いただきました。院生の皆さんが熱心に耳を傾けている様子が大変印象的で、講座終盤には、現状や課題について、白熱した議論が繰り広げられました。



見えない悩みに光を！ 多様な生き方を支援するイチョシ事業 誰も教えてくれなかった 子どものいない人生の歩き方



くまもと県民交流館パレア
男女共同参画センター

ZOOMオンライン講座

●事業の背景と概要

見過ごされてきた社会的背景

少子化対策が推進されていく中で、
さまざまな背景・要因などから子どものいない女性が増加

子どもがいない人の

80

%以上が
肩身の狭さを感じている

約

70

%が
罪悪感を感じている

という現状（マダネプロジェクト調べ）があり、

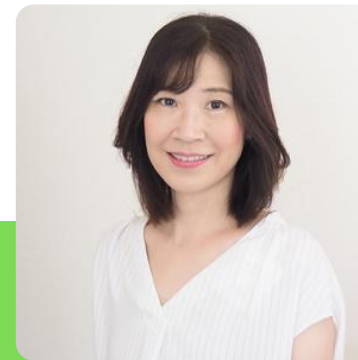
周囲の無理解や当事者の孤独感が浮き彫りに

●事業の目的と内容

「子どもがいる・いない」に関わらず、誰もが「自分の軸で」
堂々と生きられる社会を目指すためのマインドアップセミナー

日時：2025年11月1日（土）10:00～11:30 ZOOMオンライン

講師：くどうみやこ氏（マダネプロジェクト主宰）



「身近な人」にほど話せないテーマ

身体や夫婦関係に深く関わるため、
「最も話しづらい」領域

Point!!
チラシは「自分軸」をテーマに、**前向きなもの**に。
講座は、話を聞くだけではなく、**ZOOMのブレイクアウトルーム**を使い、できる限り**同じ状況の参加者3～4人で意見交換会**を実施。

●反響と参加者の声

予想を超える反響とニーズの顕在化

これまで「話しづらい」とされてきたテーマ
⇒匿名性を重視し、オンラインで開催
⇒あっという間に定員（50人）に...

申込 **61** 人にまで！



20代～60代までの幅広い世代が参加
オンラインの強みを活かして
県外からの参加も。

男性の申込も5人あり！

定員
即満席

参加者の声（アンケートより）



子どもがいない人同士でお話
することがなかったので、と
ても嬉しかったです。今まで
私がモヤモヤしていたのは、
このことだったのかと、気持ち
の整理もできたような気が
します。



多様な生き方や生き方の形を知り、**想像
する大切さを再認識**しました。分かる
ではなく、分かち合うことで心は軽くなる
と思いました。

男性にもこうした場所が必要。
吐き出せる場所を作りたいと考えて
います。



事業がもたらした最大の成果



同じ悩みを持った人がこんなにたくさん！

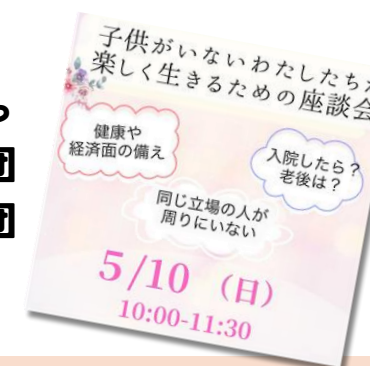
講座後のグループトークを通して

当事者同士の共感

が生まれました。

見えない声の可視化

参加者同士が講座後もつながり、
支援を行う活動をしたと相談があっ
たり、**自分たちで座談会**を実施した団
体も！（⇒熊本県男女共同参画推進団
体FreeLadyTalkさんチラシ）



センター所感

子育て支援が進む裏で、子どものいない家庭が抱える不満・不安も看過
できません。男女共同参画センターは「子育て応援」のイメージが
強いかもしれませんが、家族観のアップデートや共感力を大切に、誰
もが生きづらさを解消できる多様な事業を今後も届けたいですね。



くにたち男女平等参画ステーション・パラソル



スタンプ10個で
ミモザのミニブーケ
(商店会フラワー
ショップ提供)

スタンプ5個で
ミモザのバッジ
(パラソル作成)



今年はずは
やってみよう!

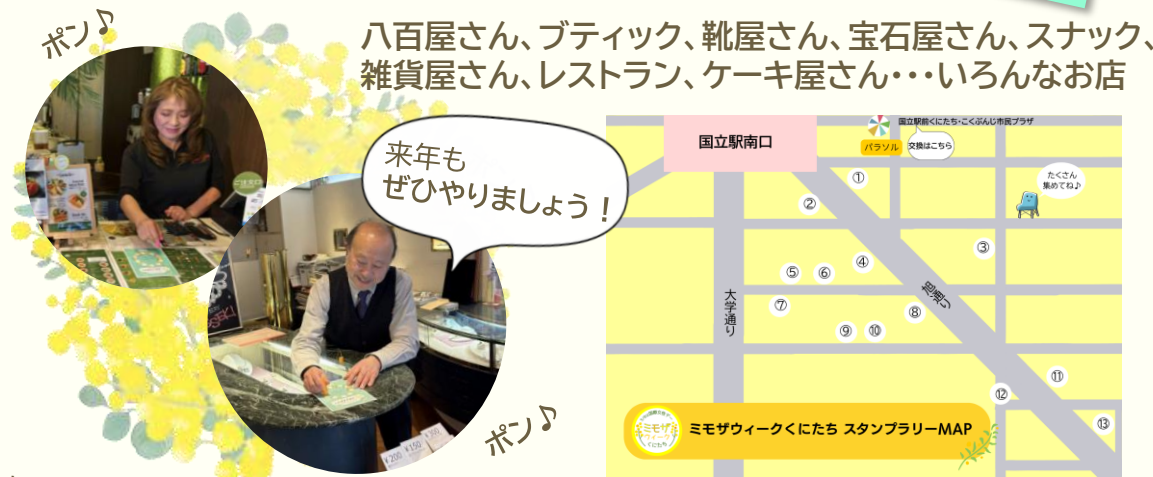


スタンプラリー

国立旭通り商店会の協力店舗(15店舗)にて、スタンプラリーを開催。商品交換場所はパラソル。「ミモザウィークくにたち」を市内の商店街とともに盛り上げました。

まちの商店街・本屋さんとのコラボ企画

ミモザウィークくにたち スタンプラリー



八百屋さん、ブティック、靴屋さん、宝石屋さん、スナック、
雑貨屋さん、レストラン、ケーキ屋さん...いろいろなお店

来年も
ぜひやりましょう!

(協賛) 国立旭通り中央会
(協力) 協同組合国立旭通り商店会

関連本コーナー

ミモザウィークくにたち関連本コーナーを書店と公民館の協力で設置。



PAPER WALL
nonowa 国立店

増田書店



本屋さんによって、
選書はそれぞれ
「個性があって興味
深い」との声

本屋に立ち寄った
講師お二人の
直筆メッセージ
とイラスト



講座の告知や、講師の
著書の販売協力も



国立市公民館

一部店舗では商品の
サービスも実施

店頭での説明や
SNS投稿での協力も

参加者の声

- ・楽しかった!
- ・今回初めて知ったお
店で買い物をした
- ・お店の方とおしゃべり
を楽しんだ
- ・パラソルが一番見
つけにくかった。など



ミモザウィークくにたちは

国立市で国際女性デーにちなんで実施しているイベント期間の名称。駅前の旧駅舎でも展示を行い、たくさんのメッセージをいただいている。



まちの本屋さんとのコ
ラボをきっかけに、新たな
講座企画が生まれました。
6/27開催予定。

**ミモザウィークくにたち
スタンプラリー**

「ミモザウィークくにたち」の協力店舗にて、スタンプラリーを開催

2026年
3/6(金)~8(日)

このマークのあるお店を
探しあてね!

スタンプ
5個でミモザのバッジ
10個でミモザのミニブーケ
プレゼント

交換場所:
くにたち男女平等参画
ステーション・パラソル
(国立駅前くにたちこ
くふじ市民プラザ)

3月8日は国際女性デーです。パラソルでは国際女性デーの
象徴であるミモザの花をモチーフに「ミモザウィークくにたち」を開催中。

主催:くにたち男女平等参画ステーション・パラソル
協賛:国立旭通り中央会
協力:協同組合国立旭通り商店会

「女性のエンパワメント」から、地域を変える「システミック・チェンジ」へ。 分断を超え、5つのセクターをつなぐプラットフォーム「ジェンダー・コレクティブ北海道」

課題発見

もやダイアログ179

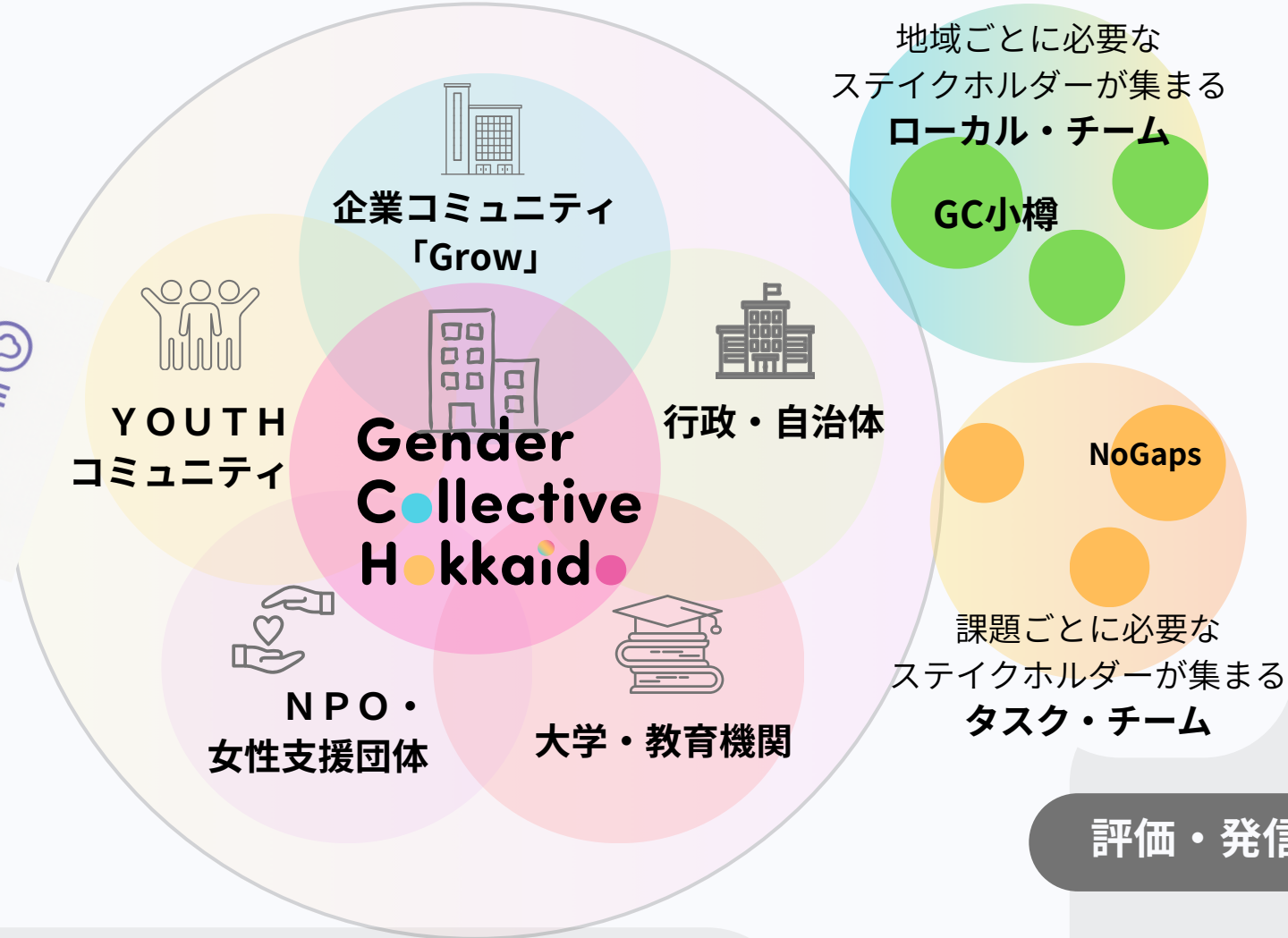
足元の「もやもや」を社会課題へ
広大な北海道、179市町村それぞれの課題に寄り添う草の根アクション。生活や職場の小さな「もやもや」を対話で言語化し、隠れたジェンダー課題をすくい上げます。



もや
DIALOGUE
179
話すことで、見えてくる。

男女共同参画センターが地域の「ハブ」に進化！

これまで交わることのなかった企業・若者・NPOを巻き込み、北海道全域のジェンダー課題を「コレクティブ（集合的）」に解決する新しいエコシステム。



波及・循環

2026年、次のステップへ…！

●札幌だけでなく他の地域とのシナジーを！

- ・ローカル・チームの設立
- ・地域ジェンダー・コレクティブ・コーディネーターの育成

●持続可能なコレクティブアクションの仕組みづくり

- ・ジェンダーファンディング学習会
- ・寄付・協賛の仕組みづくり



課題解決

GENDER LAB

世代とセクターを超えた
熱狂のアイデアソン！

NPO、企業、そして次世代を担うYOUTHが一堂に会し、地域特有のジェンダー課題に対する解決策を共に考える、熱気あふれる実践の場。
アイデアを実走させるタスク・チームを生み出します！



評価・発信

NEW RAIL

ジェンダーをキーワードに、
札幌のど真ん中に700人が集結！



ジェンダーアクションの新しい評価モデル。企業、市民団体、学校などさまざまなジェンダー課題解決の取り組みを、市民みんなで評価、発信。初年度で119件もの応募を獲得。これだけの人と組織が動く、北海道で起きた「かつてない景色」を発信します！



地域を巻き込み、次の一歩を後押し！

地方議会の女性議員を増やす「地域共催型」出前講座の挑戦

女性参政権80年

議会はあなたを待っている

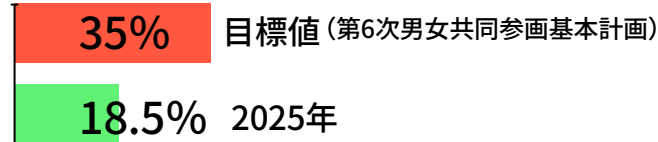
女性を議会へ in しずおか

2025年9月6日（土）13:00～16:30

静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

背景と目的

【女性地方議員の数】



目標には
遠く及ばず…

【使命】



市川房枝の
理念継ぐ

女性の政治
参画推進

理想選挙＝
住民参加型

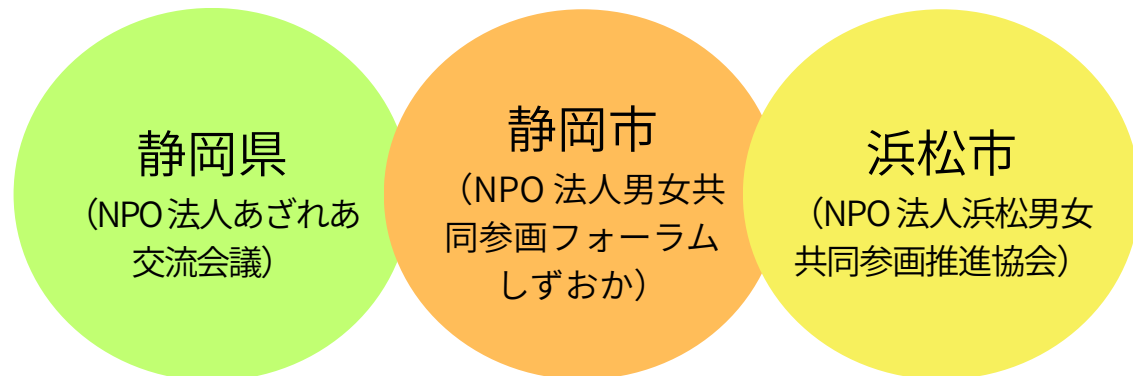
【狙い】

参加者それぞれが課題を共有

次の一歩を踏み出すきっかけを作る
出たい、出したい、支えたい！！

「イチオシ」工夫点

① 静岡県内の男女共同参画センター3館と「共創」



パネル展示や関連書籍コーナーで、会場全体を一体化！

② Think Global, Act Local

基調講演：女性差別撤廃条約を活かすために地方議会が果たす役割

「住民参加型選挙」の説明
地元の女性議員の活動報告



密に連携し、
3館共催を実現！

③ 熱量を引き出す「プラカード」ワーク



「女性議員を増やすための私のAction」プラカード作成

きくだけで終わらせず、
自らの決意に変える
仕掛け

成果と全国への広がり

驚異の参加者満足度

約 **91%**



2026年度は
秋田・長野で開催！

次回は
あなたのまちへ！

いぶいす メンズリブラボ 連続講座

男性学や男性の生きづらさという視点からジェンダーについて学び、話し、実践することで社会や自身、他者との関係を振り返るきっかけとなることを目的としています。



point 様々な視点から男性学を学ぶ

働くこと、広告、笑い...



「能力主義」「ルッキズム」「からかい」など、男性にとっての理想像や傷つきがどのように生み出されてきたのか学びます。



point 話す

感じたことやモヤモヤを共有。

参加者の声

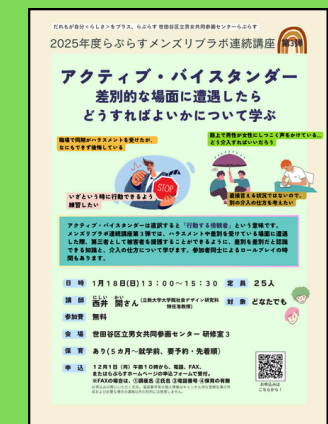
- ・ 広告・メディア ジェンダーの根深さが分かった
- ・ 介入方法を皆で考えること、発表し合うことで割とあるな〜!!と気付きましたし、意外と難しくないかも〜と思えました。



point 何度も練習

アクティブ・バイスタンダー

2024年度から開催。
差別的な言動を目撃したときにアクションを起こせるよう、ロールプレイをして身につけます。



メンズリブラボ

ルッキズム オンライン講演と情報誌で若年層に伝える



千葉市男女共同参画センター

講演会

そのカワイイは誰のため？ ルッキズムにモヤッているあなたへ贈るメッセージ

2025.10.5

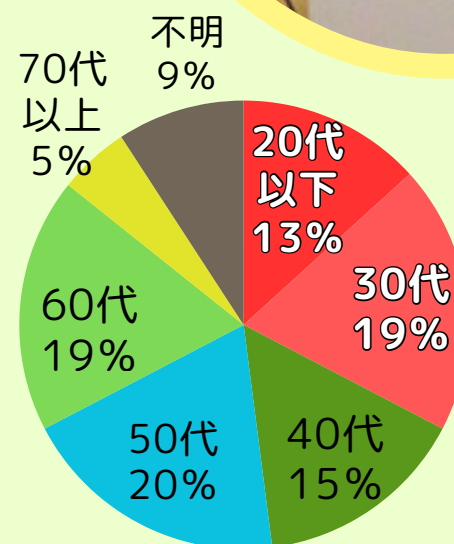
世間の基準にまどわされず、自分らしさについて「ルッキズム」の視点から考える講演会を実施しました。講師には、SNSを中心にルッキズムに関することを発信している前川裕奈さんを迎えました。前川さんの経験を通してルッキズムとの向き合い方を伺いました。



若年層の関心を惹くテーマであると見込み、希望者へのオンライン配信も後日実施

オンライン視聴回数
117回

応募者の**32%**が
10~30代



通常利用が少ない若年層への啓発に

ダイエットも整形も“自分のため”かどうかルッキズムに悩む人には伝えてあげたいと思いました。

自分自身ルッキズムで苦しんだ話もしてくださり、単にビジネスや机上の学びからの起業でないことが分かり、親近感をもてた。



2026.1

情報誌

『みらい』にてルッキズムを特集

講演後に行った前川さんへのインタビューを掲載。関連データなどとともにテーマを深掘り。



- ・ルッキズムの現状に関するアンケートデータ
- ・ルッキズムにまどわされないための参画センターからのメッセージ

参加者の声



1 課題

- ① 分類に現在のジェンダーの課題が含まれていない
- ② 選書方針が定まっていなため収集にバランスを欠く
- ③ 図書館の専門職員がいない

2 工夫

- ① **独自分類表**を改訂した
 - ・SDGs等 国連の課題を参考にした
 - ・春日部市の持つ課題を取り上げた
 - ・利用者にとって、わかりやすい表記にした
- ② 寄贈を含めた戦略的な収集を試みるとともに、JGEP Aのパッケージ貸出を利用し、***GENKI BOOKS**を設置した
- ③ 春日部にとって大切なテーマ「**防災文庫**」、「**からだ文庫**」を新設した
- ④ 図書館が目立つ配置にした
- ⑤ アドバイザーの力を借りた

3 成果

- ① 25年間一度も借りられなかった本の**貸出**が増えた
- ② **本を通じて**利用者からのリクエストや質問が増えた
- ③ ライブラリーが情報事業の大事な根幹であり、あらゆる事業の基盤になっていることを再認識したことで**職員の意識**が変わった
- ④ **情報提供**が加わったことで学習・相談事業に厚みがでた

4 目標

- ① 「ハーモニー春日部」の専門性を高める資料を収集し、蔵書を充実させる
- ② JGEP Aの文献情報データベースから「ハーモニー春日部」の蔵書を市民が検索できるようにしたい
- ③ 「女性と図書館」講座 & ライブラリー見学ツアーを開催する
- ④ 書籍郵送システム等 非来所者へのサービスを展開する
- ⑤ 寄贈された専門図書をもとに春日部市ゆかりの作家を紹介する

継続する個性

1 **〈背ラベル〉**
本を受け入れた連番になっているので、収集してきた本の歴史が分かる

2 **〈生き方という分類〉**
独自の分類で女性が生き方を模索してきた記録が見える

3 **〈環境〉**
明るく開放的で過ごしやすく、アクセスしやすい

* Gender Equality : No-nonsense Knowledge and Informationの頭文字



会議 4/1

研修 5/6

作業 9/23

研修 2/23

完成 3/31

アドバイザーと職員とのコンセプト会議	アドバイザーによる研修	職員会議及び作業
16回	2回	18回

ジェンダーやLGBTQ+、外国人、子育て女性等、多様な視点の防災を伝えてきた、熊本市男女共同参画センターはあもにい。熊本地震から10年が経ち、支援や配慮から取り残されがちな「子どもたち」に焦点をあて、当時の本音を聞きました。

大人が気づけなかった「子どもたちの声」

SNS展開

#熊本地震10年たって
言えること 投稿募集



#あの時「避難所のご飯は飽きた」
って言いたかった。

#10年後の私は今、過ごし
やすい避難所運営を考えたい
と思っている。

「あの日」飲み込んだ本音と、今だから伝えたいこと。

10年前、熊本を襲った激震。当時、小学生や中学生だった子どもたちは、壊れていく日常の中で何を
感じ、どんな思いを抱えていたのでしょうか。大人たちが懸命に復興へ向かう傍らで、彼らが大人に言
えずに飲み込んだ言葉、そして10年たった今、子どもたちや社会に伝えたいことを聞きました。

①当時の年齢 ②当時の居住地 ③現在の職業

頑張る大人の前で、泣けなかった私

中瀬 愛優さん(24) ①15歳 ②益城町 ③熊本県職員

「本当は益城に帰るのが怖かった。
でも、長子だから自分が頑張らなと、思っていた」

【経緯】 思い事の通り地震が起き、家の周りが壊れた景色は今でも忘れ
られません。自宅が被災し、しばらく熊本市内の親戚の家に避難しました。
その後、5月中旬まで避難所で生活しました。

【避難の私】 両親が弟たちの世話で手いっぱいなのを見て、「自分は我慢しな
きゃ、自分が頑張ればいい」と心に決めていました。

【避難所生活で】 プライバシーがなく、女性用のお風呂に高学年の男子のお母
さんと一緒に並んでいるのも嫌だった。その光景に違和感を感じながらも、
忙しそうなお母さんたちは決して言いませんでした。不安な気持ちを、同級
生と話すことで乗り越えてきました。



情報誌の特集



〇報告
・令和7年度熊本市主催事業 報告
女性のキャリアアップ支援講座
令和6年 熊本市民のための防災式典ブース出典
〇企画・イベントレポート
・はあもにいフェスタ2025
・暴力防止講座「小さなSOSに気づく 生きづらさに寄り添う地域のチカラ」
・先輩から学びやすく学ぶ アナログセミナー開催

熊本地震から10年
子どもの「静かな声」に学ぶ
誰も取り残さない防災の形

2018年熊本地震後、小学生や中学生だった子どもたちが、壊れていく日常の中で何を
感じ、どんな思いを抱えていたのでしょうか。大人たちが懸命に復興へ向かう傍らで、
彼らが大人に言えずに飲み込んだ言葉、そして10年たった今、子どもたちや社会に
伝えたいことを聞きました。



支援制度のもろさを目の当たりに

金田 太助さん(23)

①14歳 ②熊本県東区 ③団体職員

「男として役に立たなさいいけない。
そう自分を奮い立たせていた」

【経緯】 自宅が教会のため、異外から物資がたくさん届きました。
支援に奔走する父を頼りたく感じました。物資の運び込み
など、自分も役立ちたいと頑張りました。

【避難の私】 「家が無事だから」という理
由で避難所の食料配布を受けられな
かった高齢者が、泣きながら物資を
求めに来た姿を見て、支援制度のも
ろさにショックを受けました。

これからの私

大学では災害支援について
研究。10年前にもった助けを、
今度は私が誰かへの
支援として返したい。



「守られる側」に 貼られたレッテル

松山 凜歩さん(23)

①14歳 ②益城町 ③はあもにい職員

「女の子は一人で外に出ちゃダメ。
そんな言葉に縛られていた」

【経緯】 住んでいた家に、「危険」の赤い紙が貼られました。母
から「今まで住んでいた家には住めなくなる」と泣きそうな声で
言われた時、安心できる居場所がなくなると感じました。

【避難所生活で】 性被害防止を理由に女の子の
行動が制限される一方で、男性に対しては
根拠のない噂が立つなど、性別による「通
ごしにくさ」を感じていました。そんな中
で救いになったのは、学校の先生からのい
つも電話していいよ」という一言でした。

子どもたちへ

一つでいい、心細い時に自
分を助けてくれる「安心でき
るもの」を持っていて。



当時の子どもたちは壊れていく日常の
中で何を感じていたのか。
復興へ向かう大人たちの傍らで言えず
に飲み込んだ言葉、10年経った今だか
らこそ伝えたい思いを取材。

パネルの制作



パネル貸出

自治体や教育機関へ
「静かな声」をリレー



メディアで拡散



次の世代へつなぐ、「誰も取り残さない防災」の形を熊本から全国へ